

「私と世界がつながるまち 刈谷」をめざして
刈谷市国際化・多文化共生推進計画

概要版

平成24年度～平成33年度



必要性 なぜ国際化・多文化共生をすすめるのか

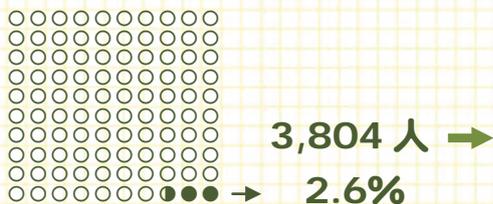
刈谷市が、国際化・多文化共生をすすめるのは、次の4つの大きな目的をめざすからです。

1 多様性を成長につなげる	外国人市民を受け容れることや多様な人の集まりとなることで、新しい出会い、発見、創造のイノベーション（変化・改革）などを生み出す原動力となり、市民やまちの成長につながります。
2 地球規模の共生をすすめる	Think globally , Act locally（地球的な視野で考え、地域で行動しよう）は、地球規模で進む共通の課題を解決し、相互依存で成り立っている私たちの暮らしをまもっていくことにつながります。
3 すべての人の人権をまもる	日本における人権の重点課題の1つである「外国人の人権」をまもることは、女性、子ども、高齢者、障がい者などの人権をまもることと根底は同じであり、包括的にすべての人の人権をまもることにつながります。
4 共存・協働のまちをつくる	共に地域で暮らす外国人市民とともに、暮らしやすく心の通ったまちにしていくための共通の課題に、「対話」「理解」「共感」を大切にしながら取り組むことは、共存・協働のまちをつくることにつながります。

統計から見る刈谷の外国人市民

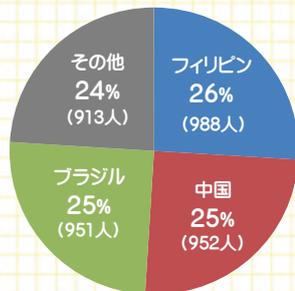
平成23年10月1日現在

① 外国人市民数と総人口に占める比率



外国人市民の比率は、全国平均1.6%よりは高く、愛知県内では平均的です。

② 外国人市民の構成割合

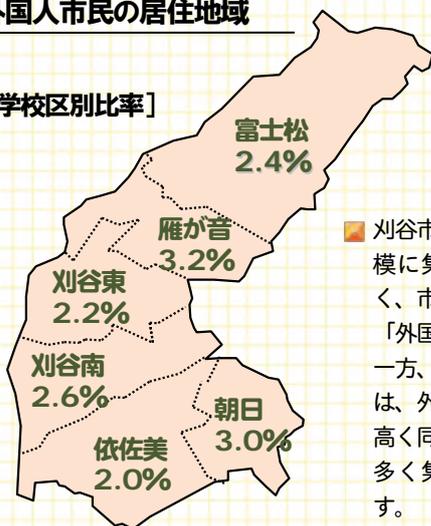


- 昨年までは1位を占めていたブラジルが景気の影響で減っています。
- 県内他都市と比べると、特にフィリピン国籍の方が多くなっています。

「その他」の主な国・韓国・朝鮮、ベトナム、ペルー、インドネシア、スリランカ、米国、タイ、インド、ネパールなど

③ 外国人市民の居住地域

[中学校区別比率]



刈谷市は、外国人が大規模に集住する地域はなく、市内に分散して住む「外国人散住都市」です。一方、市内の一部の町には、外国人比率が比較的高く同じ国籍の外国人が多く集まる所があります。

④ 公立学校に通う外国籍の子どもの数

小学校 149人
中学校 53人

- 外国籍の子どもは年々増加しており、かりがね小学校、朝日小学校、雁が音中学校に多く在籍しています。
- 2/3の子どもに日本語指導が必要です。

⑤ 来日・在住の主な背景

ブラジル人 → 就労 など
フィリピン人 → 結婚、就労 など
中国人 → 研修、就労、留学 など

- 外国人市民は20~30歳代が多くなっています。また、一時滞在から定住化が進んでいます。

地域

[将来こうしたい！風景]

- ① 誰もが、地域の住民に関心を持ち、それぞれの文化を大切にし、認めあい、助けあっている。
- ② 人々が交流する場があり、様々な国の文化と出会い、多様な情報を提供しあっている。
- ③ 国籍等の異なる家庭同士のつながりが強くなっている。
- ④ 誰もが、地域に関心を持ち、文化継承、交流、改善、発展のための活動を行ったり、参加したりしている。



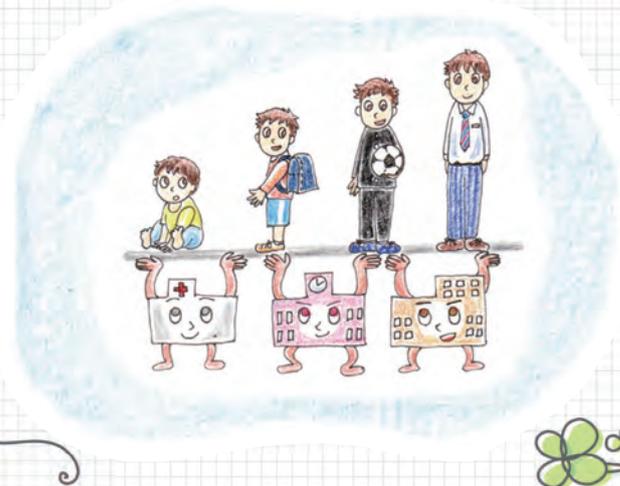
[取り組み施策]

- 1 地域に交流する場・機会をつくる **外日**
- 2 地域の情報を共有する **外日**
- 3 地域の活動を共にすすめる **外日**
- 4 互いの文化に出会いまなぶ機会をつくる **日外**
- 5 地域に相談できる人をつくる **外**
- 6 あいさつしあえるようにする **日外**

教育の場

[将来こうしたい！風景]

- ① すべての子どもが、等しく義務教育を受けられ、卒業後に向けた支援体制が整っている。
- ② すべての子どもが、いじめや差別なく、ありのままの自分を受け容れている。
- ③ すべての子どもが、様々な国の文化にふれられ、外国人のともだちをつくる機会がある。
- ④ すべての子どもが、地域や世界の共通の課題を共に考え、解決していくための力が育まれている。



[取り組み施策]

- 1 様々な国の人や文化にふれる機会をつくる **全**
- 2 子どもの学校生活をサポートする **外**
- 3 子ども同士が、認めあえるようにする **外日**
- 4 子どもの保護者をサポートする **外**
- 5 地域や世界の課題を主体的に考える機会をつくる **全**
- 6 地域社会で子どもをサポートする **外日**



目標と取組 ビジョンの実現のために何をするのか

本市の国際化・多文化共生に関する「将来こうしたい！風景」＝ビジョンを、地域、教育の場、公共施設・機会、企業・職場、地球規模の5つの場面ごとに掲げます。

このビジョンを実現するための「取り組み施策」を、2021年度を目標とした10年間の計画として進めていきます（計画書には、具体的な「取り組み内容」が示されています）。



公共施設・機会

〔将来こうしたい！風景〕

- ① 誰もが、言葉の壁なく、公共サービスをスムーズに受けられる。
- ② 国際化・多文化共生をすすめる拠点と、それを生かす人材とプログラムがある。
- ③ 様々な国の人々や文化と関わり、尊重し、共生するための市民参加や協働の機会が多様にある。
- ④ 誰もが、言葉の壁なく、災害時・緊急時にも、安心して暮らせるようになっている。



〔取り組み施策〕

- 1 公共サービスの外国人市民対応化をすすめる **外**
- 2 国際化・多文化共生の拠点をつくり、最大限に活かす **全**
- 3 外国人向け情報・サービスを充実させる **外**
- 4 防災と災害時のサポートをすすめる **外**
- 5 外国人市民のまちづくりへの参画をすすめる **外日**
- 6 様々な国の人や文化と出会う場・機会をつくる **日**
- 7 日本語学習をすすめる **外**
- 8 外国人市民の互助体制をつくる **外**
- 9 日本や刈谷市の文化等を知る機会をつくる **外**
- 10 外国人市民への偏見・差別をなくす **日**
- 11 外国人も住みやすいまちをつくり、アピールする **外**



凡例

- 外日** …外国人市民・日本人市民向け（相互交流）
- 外日** …外国人市民・日本人市民向け（個別実施）
- 外** …外国人市民向け **日** …日本人市民向け
- 全** …すべての市民向け **他** …その他



企業・職場

[将来こうしたい！風景]

- ① 誰もが、その能力を発揮し働く場や機会がある。
- ② 教育や昇格の機会が等しくあり、国際性や多様性に富んだ適材適所がすすんでいる。
- ③ 多くの企業が、地域の国際化や多文化共生に貢献し、働く人が地域や世界とつながっていると実感している。



[取り組み施策]

- 1 企業の国際化・多文化共生の社会的貢献をすすめる **全他**
- 2 外国人社員に対するサポートを充実させる **外**
- 3 働く人が地域や世界につながる機会をつくる **全**
- 4 外国人市民の安定した就業をサポートする **外**
- 5 多様性を活かした人権尊重の職場づくりをすすめる **外日**

地球規模

[将来こうしたい！風景]

- ① 誰もが、国籍等にとらわれず、同じ地球市民という意識で、相互に認めあっている。
- ② 貧困や環境など世界の共通の課題に対し、刈谷の持つ人的・経済的・技術的な支援や行動によって、人々の自立と共生に貢献している。
- ③ 世界の多様性を活かすあう、人や情報のつながりや都市間の交流・共生が進んでいる。



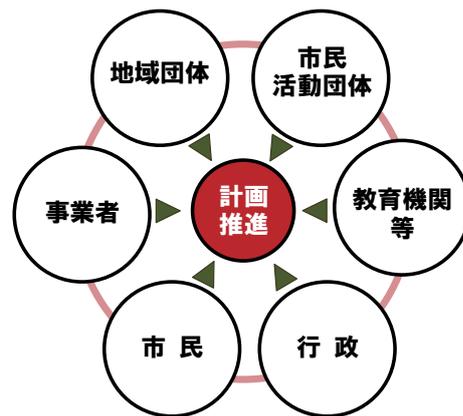
[取り組み施策]

- 1 世界の状況や課題について知る機会をつくる **全**
- 2 人どうしの国際交流をすすめる **全**
- 3 地球市民意識を育てる機会をつくる **全**
- 4 市民が身近にできる国際協力を広める **全**
- 5 学び高めあう都市間交流をすすめる **他**
- 6 市や企業による国際協力をすすめる **他**

推進体制 誰がどのようにすすめるのか

● 関係主体の協働

本計画は、「刈谷市共存・協働のまちづくり推進条例」に掲げられた「市民（日本人市民、外国人市民）」「地域団体」「市民活動団体」「事業者」「教育機関等」「行政」の関係主体が参画と対話を通じて進めます。



● 取り組みの体制

本計画は、関係主体による自主的な取り組みとともに、重点協働プロジェクトごとに、市民参画によるプロジェクトチームをつくり、関係主体がつながり、協働による取り組みの展開を積極的にすすめます。また、国際化・多文化共生推進委員会等を通じて、3年サイクルで取り組みの実施と点検・評価等を行い、取り組み内容を継続的に改善していきます。

また、多くの市民や関係機関がさまざまな関わり方や参画ができるよう努めます。

● 計画策定段階からすすめた共存・協働のまちづくり

本計画は、策定の段階から「共存・協働のまちづくり」をすすめることを意識して作られました。

計画に記されているすべての目標や取り組みは、外国人や日本人市民を対象に行ったアンケートや、市民ワークショップ「私と刈谷と世界をつなぐミーティング」、関係主体（ステークホルダー）が集まった「計画策定委員会」などで提案された想いや意見が基礎になっています。



▲ ワークショップ「私と刈谷と世界をつなぐミーティング」



▲ 計画策定委員会